



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月10日

上場会社名 株式会社 バンダイナムコホールディングス
コード番号 7832 URL <http://www.bandainamco.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石川 祝男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長 (氏名) 浅古 有寿

TEL 03-5783-5500

四半期報告書提出予定日 平成24年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	323,397	12.3	30,783	85.3	30,811	85.9	16,301	343.7
23年3月期第3四半期	288,030	1.8	16,616	253.0	16,577	235.9	3,673	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 15,398百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 △1,002百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	71.75	—
23年3月期第3四半期	15.26	15.25

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	323,161	206,974	63.5
23年3月期	308,269	213,693	68.8

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 205,231百万円 23年3月期 212,102百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
24年3月期	—	12.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	440,000	11.6	31,500	92.8	31,500	92.1	18,500	900.9	82.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料 P. 4「2. サマリー情報(その他)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	230,000,000 株	23年3月期	240,000,000 株
24年3月期3Q	10,305,935 株	23年3月期	3,497,884 株
24年3月期3Q	227,196,486 株	23年3月期3Q	240,802,544 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料 P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、平成24年2月10日に当社ホームページに掲載を予定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における経済環境は、甚大な被害をもたらした東日本大震災やそれに伴う電力供給不足の問題、さらには欧米市場の低迷や急激な円高の進行などにより、厳しい状況で推移しました。また、エンターテインメント業界においても、個人消費の低迷等により不透明な状態が続きました。

このような環境のなか、当社グループは平成21年4月にスタートした3カ年の中期計画の最終年度において、中長期的な成長に向けたグローバル経営基盤の整備を推進しております。

事業面においては、玩具ホビー事業の定番キャラクター玩具やカードなどの玩具周辺商材、コンテンツ事業の業務用ゲーム機、ネットワークコンテンツ、家庭用ゲームソフトなどが業績に貢献しました。また、アミューズメント施設事業においては、国内既存店売上が堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高323,397百万円（前年同期比12.3%増）、営業利益30,783百万円（前年同期比85.3%増）、経常利益30,811百万円（前年同期比85.9%増）、四半期純利益は16,301百万円（前年同期比343.7%増）となりました。

[セグメント別業績]

[玩具ホビー事業]

玩具ホビー事業につきましては、国内においては、「仮面ライダー」シリーズ、「海賊戦隊ゴーカイジャー」の商材が各カテゴリーを連動した展開により非常に人気となりました。また、「ドラゴンボールヒーローズ」などのデジタルカード、「バトルスピリッツ」などのトレーディングカード、「プロ野球オーナーズリーグ」などのネットワークと連動したカードを中心に、カードゲームが業績に大きく貢献しました。さらに、新たな展開としては、「ダンボール戦機」のプラモデルが小学生男児を中心に人気となるとともに、コレクション性の高い大人向けの玩具が好調に推移しました。

海外においては、アメリカ地域ではPower Rangersシリーズの2年ぶりの新作となる「Power Rangers SAMURAI（パワーレンジャー・サムライ）」の商材が人気となるとともに、アジア地域では日本と連動した展開により好調に推移しました。一方、ヨーロッパ地域では女兒向けや幼児向けなどの新しいカテゴリーの商品展開を実施しましたが、人気キャラクター玩具を中心に堅調に推移した前年同期には及びませんでした。

この結果、玩具ホビー事業における売上高は133,570百万円（前年同期比14.8%増）、セグメント利益は17,485百万円（前年同期比28.9%増）となりました。

[コンテンツ事業]

コンテンツ事業につきましては、業務用ゲーム機においては、「鉄拳タッグトーナメント2」などの人気シリーズの最新機器に加え、定番の景品機器のリピーター販売や景品の販売等が業績に貢献しました。また、家庭用ゲームソフトでは、プレイステーション3向け「テイルズ オブ エクシリア」や「機動戦士ガンダム EXTREME VS.（エクストリームバーサス）」、プレイステーション・ポータブル向け「AKB1/48 アイドルとグアムで恋したら…」などが人気となりました。さらに、ネットワークコンテンツは、「機動戦士ガンダム」シリーズを中心にソーシャルゲームが非常に好調に推移するとともに、映像音楽コンテンツでは「機動戦士ガンダムUC（ユニコーン）」や「TIGER & BUNNY（タイガー&バニー）」の映像パッケージソフトが人気となりました。

この結果、コンテンツ事業における売上高は151,411百万円（前年同期比16.2%増）、セグメント利益は11,636百万円（前年同期比227.5%増）となりました。

[アミューズメント施設事業]

アミューズメント施設事業につきましては、国内において、ショッピングセンター内のキャラクターの世界観を体感できる差異化された店舗を中心に人気となり、既存店売上高は前年同期比101.9%と好調に推移しました。

海外においては、厳しい市場環境のなか、欧米において売上が減少したものの、店舗の選択と集中により利益面においては順調に推移しました。

この結果、アミューズメント施設事業における売上高は45,967百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は1,827百万円（前年同期比25.7%増）となりました。

平成24年3月期第3四半期末時点における施設の状況

直営店	レバニユーシェア	その他	合計
259店	982店	3店	1,244店

[その他]

その他の事業につきましては、グループの各戦略ビジネスユニットへ向けた物流事業、ビル管理事業などを行っている会社から構成されており、当第3四半期連結累計期間は、これらのグループサポート関連業務における効率的な運営に取り組みました。

この結果、その他の事業における売上高は17,749百万円（前年同期比32.4%増）、セグメント利益は1,758百万円（前年同期比120.9%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ14,892百万円増加し323,161百万円となりました。これは主に自己株式の取得や法人税等の支払等に伴い現金及び預金が5,376百万円減少した一方で、売掛金及び受取手形が15,536百万円、商品及び製品が3,815百万円増加したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ21,611百万円増加し116,187百万円となりました。これは主に流動負債のその他に含まれる未払金が7,352百万円減少した一方で、支払手形及び買掛金が10,204百万円、新規借入の実施に伴い長期借入金が11,333百万円、短期借入金が4,186百万円増加したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ6,718百万円減少し206,974百万円となりました。これは主に好調な連結業績による四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が10,756百万円増加した一方で、自己株式の公開買付や市場買付の実施に伴い自己株式が16,562百万円増加したことによるものです。なお、自己株式の消却を実施したことに伴い資本剰余金及び自己株式はそれぞれ9,299百万円減少しております。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の68.8%から63.5%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の経済情勢は、国内における個人消費の低迷や欧米の景気低迷に加え、円高の影響もあることから、厳しい状況が継続すると予測されます。また、当社グループを取り巻くエンターテインメント業界の事業環境もこの影響を受け、不透明な状況が続くものと想定されます。

このような状況下、当社グループは本日公表した平成24年4月よりスタートする3ヵ年の新中期計画へ向けて、成長基盤を着実に整備してまいります。

トイホビー事業につきましては、国内では「仮面ライダーフォーゼ」、「機動戦士ガンダムAGE（エイジ）」などに加え、「特命戦隊ゴーバスターズ」や「スマイルプリキュア！」（いずれも平成24年2月よりテレビ放映開始）などの定番キャラクターによる、玩具を軸としたカテゴリー連動の展開を強化してまいります。また、国内において圧倒的No.1のポジションを目指すなか、カードゲーム、小学生向けのプラモデル、大人向けの玩具など、ターゲット拡大へ向けた新たな商品・サービスを投入してまいります。海外においては、欧米では来期も見据えて、今期アメリカ地域で好スタートを切った「Power Rangers（パワーレンジャー）」シリーズなどの男児向け玩具を中心に収益性の改善をはかります。また、アジア地域においては日本と連動した展開を強化してまいります。

コンテンツ事業につきましては、業務用ゲーム機では「湾岸ミッドナイト マキシマムチューン4」などの人気シリーズの最新機器、家庭用ゲームソフトでは、プレイステーション3・Xbox360向け「ソウルキャリバーV」、プレイステーション3向け「ワンピース海賊無双」などのタイトルを中心に展開します。また、ネットワークコンテンツについては、既に人気となっている「機動戦士ガンダム」シリーズのソーシャルゲームに加えて、「ONE PIECE グランドコレクション（ワンピースグランドコレクション）」など複数の人気コンテンツのソーシャルゲームにより、コンテンツ価値の最大化を目指します。

アミューズメント施設事業につきましては、国内において当社グループならではのキャラクターの世界観を体感できる差異化した店舗を推進してまいります。海外においては、引き続き各種効率化施策を実施し、収益性の向上をはかってまいります。

なお、通期の業績見通しにつきましては、第3四半期連結累計期間の業績及び直近の業績動向を踏まえたうえで、平成23年10月26日に公表しました予想数値よりP.4に記載のとおり修正いたします。

平成24年3月期通期の連結業績予想数値の修正
(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	420,000	25,000	26,000	15,000	65円 89銭
今回予想 (B)	440,000	31,500	31,500	18,500	82円 05銭
増減額 (B-A)	20,000	6,500	5,500	3,500	—
増減率 (%)	4.8	26.0	21.2	23.3	—
ご参考： 前年同期実績 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	394,178	16,338	16,399	1,848	7円 71銭

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	88,126	82,750
受取手形及び売掛金	57,262	72,798
商品及び製品	10,553	14,368
仕掛品	26,741	25,191
原材料及び貯蔵品	4,406	5,252
その他	24,664	23,366
貸倒引当金	△820	△621
流動資産合計	210,934	223,107
固定資産		
有形固定資産	42,591	45,247
無形固定資産	8,536	8,239
投資その他の資産		
その他	48,111	48,239
貸倒引当金	△1,905	△1,671
投資その他の資産合計	46,206	46,567
固定資産合計	97,334	100,054
資産合計	308,269	323,161

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	36,641	46,845
短期借入金	3,428	7,615
未払法人税等	7,979	8,376
引当金	2,590	2,413
その他	35,464	31,586
流動負債合計	86,105	96,837
固定負債		
長期借入金	—	11,333
引当金	3,001	3,069
その他	5,469	4,947
固定負債合計	8,470	19,350
負債合計	94,576	116,187
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	69,923	60,623
利益剰余金	159,491	170,248
自己株式	△3,496	△10,759
株主資本合計	235,919	230,112
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	447	1,446
繰延ヘッジ損益	3	△88
土地再評価差額金	△6,491	△6,408
為替換算調整勘定	△17,775	△19,830
その他の包括利益累計額合計	△23,816	△24,880
少数株主持分	1,590	1,742
純資産合計	213,693	206,974
負債純資産合計	308,269	323,161

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	288,030	323,397
売上原価	183,377	200,158
売上総利益	104,652	123,239
販売費及び一般管理費	88,036	92,455
営業利益	16,616	30,783
営業外収益		
受取配当金	204	222
持分法による投資利益	88	—
貸倒引当金戻入額	—	378
その他	528	444
営業外収益合計	821	1,045
営業外費用		
持分法による投資損失	—	341
為替差損	658	337
その他	201	339
営業外費用合計	859	1,017
経常利益	16,577	30,811
特別利益		
関係会社株式売却益	—	84
貸倒引当金戻入額	118	—
事業整理損失引当金戻入額	22	—
新株予約権戻入益	715	—
その他	782	216
特別利益合計	1,638	300
特別損失		
固定資産除却損	149	713
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,205	—
その他	2,962	628
特別損失合計	4,317	1,342
税金等調整前四半期純利益	13,898	29,770
法人税等	10,054	13,234
少数株主損益調整前四半期純利益	3,843	16,536
少数株主利益	169	234
四半期純利益	3,673	16,301

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,843	16,536
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,030	1,056
繰延ヘッジ損益	△358	△91
土地再評価差額金	—	82
為替換算調整勘定	△5,469	△2,125
持分法適用会社に対する持分相当額	△48	△60
その他の包括利益合計	△4,845	△1,137
四半期包括利益	△1,002	15,398
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,122	15,237
少数株主に係る四半期包括利益	120	160

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3 四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	トイホビー 事業	コンテンツ 事業	アミューズ メント施設 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	113,659	123,012	46,432	283,104	4,926	288,030	—	288,030
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,649	7,249	57	9,956	8,479	18,436	△18,436	—
計	116,309	130,261	46,489	293,060	13,406	306,467	△18,436	288,030
セグメント利益	13,561	3,553	1,454	18,569	796	19,365	△2,749	16,616

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループの各戦略ビジネスユニットへ向けた物流事業、ビル管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,749百万円には、セグメント間取引消去△565百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,184百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	トイホビー 事業	コンテンツ 事業	アミューズ メント施設 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	129,435	142,071	45,874	317,382	6,015	323,397	—	323,397
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,134	9,339	92	13,566	11,733	25,300	△25,300	—
計	133,570	151,411	45,967	330,949	17,749	348,698	△25,300	323,397
セグメント利益	17,485	11,636	1,827	30,949	1,758	32,708	△1,924	30,783

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループの各戦略ビジネスユニットへ向けた物流事業、ビル管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,924百万円には、セグメント間取引消去26百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,951百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年2月25日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において、自己株式16,806,264株を16,561百万円にて取得いたしました。

また、平成23年7月15日開催の取締役会決議に基づき、平成23年7月19日に自己株式の消却を行いました。この消却により自己株式が10,000,000株、9,299百万円減少し、資本剰余金が同額減少しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末において、自己株式は10,759百万円となっております。

(6) 重要な後発事象

(自己株式の消却)

当社は、平成24年2月10日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却を行うことを以下のとおり決議いたしました。

- | | |
|---------------|----------------------|
| ① 消却の理由 | 現時点において明確な使用目的がないため。 |
| ② 消却の方法 | その他資本剰余金から減額 |
| ③ 消却する株式の種類 | 普通株式 |
| ④ 消却する株式の総数 | 8,000,000株 |
| ⑤ 消却実施日 | 平成24年2月22日（予定） |
| ⑥ 消却後の発行済株式総数 | 222,000,000株 |